

## 令和元年度第3回全国健康保険協会山口支部評議会議事概要

開催日時：令和2年1月20日（月）14：00～15：30

開催場所：防長苑「白鳳」

出席者：河村評議員、鈴木評議員、中田評議員  
永見評議員、藤本評議員、吉岡評議員（五十音順）

### 議 題

- 1 令和2年度保険料率について
- 2 令和2年度山口支部事業計画（案）及び山口支部保険者機能強化予算（案）（変更点）について
- 3 その他

### 議 事

#### 1. 令和2年度保険料率について

令和2年度平均保険料率及び山口支部保険料率を資料に基づき事務局から説明。

#### 《被保険者代表》

平均保険料率 10%が妥当というよりか限界という思いはある。そこから各都道府県単位毎の保険料率を計算しているが、全国統一の保険料率になる事はこの先ないのか。

#### 《事務局》

協会けんぽを発足した目的の一つが都道府県単位の保険料率の導入というのがあり、今後全国統一の保険料率になるのは考えにくいと思われる。ただ評議会の意見の中には全国の保険料率を一律に戻してほしいという意見も若干あります。

#### 《被保険者代表》

各都道府県単位の保険料率の計算方法で、年齢調整率と所得調整率の調整幅を増やすことはできないのか。ここの所をもうちょっと調整できれば山口県の保険料率も下がるのではないのか。

《事務局》

年齢調整率と所得調整率にマイナスが増えれば山口県も全国平均に近づくのだが、年齢と所得というのは協会けんぽがいくら努力しても、数値に影響を及ぼすのが難しいので、致し方ないと思っています。

《学識経験者》

第1号保険料率の計算方法が変われば変わるが、これが変わらなければ調整幅はあまり変わらないと考えていいのか。

《事務局》

その通りです。調整前保険料率をいかに下げるかという事が大事になってきます。

《事業主代表》

平均保険料率は10%維持、山口県の保険料率は10.20%と昨年よりも0.01%だけでも下がると言う事で異論はない。企業を経営する中で景気の波もあるし、事業がいい時も悪い時もある中で、どうやって利益を出していくか、どうやって従業員の給料を上げていくかを常に考え一所懸命努力しているので、山口県は年齢構成が高く、所得水準が低いという話があったが、少しでも上向くように貢献できればと思っている。

《事業主代表》

平均保険料率10%維持については、様々な意見があるが、妥当な保険料率だと思う。いつ病気になるか分からないので、そうならないように日頃から健康に気をつける事が大事ではないかと思う。

《学識経験者》

平均保険料率10%で変わらず、山口支部の保険料率は、若干下がるが、ほとんど変わらない。現在の状況を考えるとしかたがないと思う。今後社会の高齢化が進み、景気がどのように動くか分からない中、保険料率を下げる事は将来に不安を残す事だと思う。もちろんもっと低くなるのがいいが、前回と今回の保険料率についての資料、データ、多方面の意見を見てきて、5年後、10年後に法定準備金が安泰であるとはとても言えない。現在少し余裕があるからといって平均保険料率を下げてしまうと、何年後かに法定準備金を使い切って、急に保険料率を上げないといけない事態に陥る現状では10%やむなしといったところである。

インセンティブ制度について資料に基づき事務局から説明。

《学識経験者》

何をしたらインセンティブに反映されるかというのが伝わりにくいのではないか。もっと周知していかないといけないと思う。インセンティブ制度に積極的に参加している事業所が分かるロゴマークでも考えて、付与していくような事をすれば、周知にも役立つと思う。

《被保険者代表》

保険料率をもっと下がればいいが、実態としては様々な健康活動につながっていかればいいと思う。

《事業主代表》

様々なリーフレット等の作成をして、事業所に対し周知・配布すれば、事業所から従業員に対し、もっと周知ができ、事業所としてもいろいろな取り組みができる。

《学識経験者》

インセンティブ制度を導入してまだ間もないので、これがどう機能していくかという事が十分に検証されていない。しばらくは今のままで続けたらいいのではないか。先ほどの説明からもインセンティブ制度が十分に認知されていないという事が一番の問題。知っていれば行動に変化が生じる事もあるのでまずは知ってもらう事が重要ではないか。

**2. 令和2年度山口支部事業計画(案)及び山口支部保険者機能強化予算(案)  
(変更点)について**

資料に基づき事務局から説明。

**3. その他**

ジェネリック医薬品の使用促進に係る保険者機能強化予算の計画変更について  
(案)

資料に基づき事務局から説明。

《学識経験者》

20歳から39歳までの人をターゲットにしているという事だが、この年代の人々の使用割合が低い理由が分かれば教えていただきたい。

《事務局》

20歳から39歳までの層の使用割合が低い理由の分析はまだ行っていないが、この年齢層の人たちは1回の受診で診療を終了する人が多いのが原因の一つではないか。年齢が上がるにつれて長い期間受診しないといけない人の割合が増えていくので、そうなる前にジェネリック医薬品の周知をし、年齢が上がり必要な時に切り替えてもらえれば全体的な割合の底上げにもつながると思っています。

以上